

4 農総試 5 7 - 3 号
 令和 4 年 6 月 3 日

関係各位

愛知県農業総合試験場長
 (公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

令和 4 年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月)
 令和 4 年度病害虫発生予察注意報第 2 号

担 当 環 境 基 盤 研 究 部 病 害 虫 防 除 室
 電 話 0561-62-0085
 内 線 471
 フ ァ ッ ク ス 0561-63-7820

令和 4 年度病害虫発生予報第 3 号 (6 月)

令和 4 年 6 月 3 日
 愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	紋枯病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	綿葉枯病	平年並	県全域	前年の発生量はやや少ない 5月下旬のヒメトビウンカの 発生量はやや多い	- +
	ニカメイガ	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並	±
	ヒメトビウンカ	やや多い	県全域	5月下旬の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±

・防除対策
 [イネ・ヒメトビウンカ]

ムギで増殖したヒメトビウンカがイネに飛来することが考えられます。ヒメトビウンカを対象に育苗箱施薬等を実施していない場合は、ムギ畑から飛来する成虫を対象にスタークル/アルパリン粒剤などで防除しましょう。ヒメトビウンカはイネ雑草枯ウイルス

スを媒介するため、本病に抵抗性を持たないイネ品種では、特に防除に努めましょう。

・留意事項

イネいもち病は気温が 20~25℃で曇雨天が続くと発生量が多くなります。名古屋地方気象台 6 月 2 日発表の 1 か月予報によると、向こう 1 か月の気候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。ほ場をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。また、補植用苗は本田でのいもち病の伝染源になるので、補植終了後は直ちに除去しましょう。

イネ紋枯病は、梅雨期の温度が高いと発生量が増加します。特に、梅雨初頭頃に高温で推移すると、発生が早まりその後の発生量も多くなるため、前年の発生量が多かったほ場では、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

トビイロウンカ及びセジロウンカについて、日本植物防疫協会提供の飛来解析によると、5 月 31 日までに本県への飛来に適した気象条件となった日はありませんでした。また、本県における予察灯への誘殺及び本田調査での発生も確認されていませんが、今後の本県から発表するトビイロウンカ及びセジロウンカに関する情報に留意してください。

スタクリンゴカイ (ジャンボタニシ) の活動が確認されたほ場があります。移植後 3 週間程度 (食害を受けにくい 5 葉程度) までは浅水管理を行いましょう。また、貝の発生が多い場合は薬剤防除を行いましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	黒点病	平年並	県全域	5月の梢枝の種子形成量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	少ない	県全域	5月下旬の発生量は少ない	-
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける 5 月下旬の 発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は少ない 6月の降水量はほぼ平年並 5月下旬に豪雨があった	- ± +
	黒星病	平年並	県全域	4月の発病枝率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
モモ	灰星病	平年並	県全域	4月の発病花率は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ナンヒメシシ クイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	±
	モモハモグリ ガ	平年並	県全域	5月下旬の被害率率は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	やや多い (やや早い)	県全域	5月下旬の発生量はやや多い (早い) 6月の降水量はほぼ平年並	+
	黒とう病	多い	県全域	5月下旬の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	+
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	県全域	イヌマキにおける5月下旬の 発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数 は平年並	± ±
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	+
	角斑落葉病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±
	円星落葉病	やや多い	県全域	前年秋の発生量は多い 6月の降水量はほぼ平年並	+
	うどんこ病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並	±
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	チャバネアオカメムシの越冬 成虫密度はやや多い フェロモントラップ及び予察 灯における誘殺数は平年並	+

・防除対策

【ウンシュウミカン・そうか病】

ジマンダイセン水和剤やストロビードライフロアブルなどで防除しましょう。

【ブドウ・べと病】

ホライズンドライフロアブルやランマンフロアブルなどで防除しましょう。なお、農薬によっては幼果期以降の散布で果粉の溶脱や果実の汚れ等を生じることがあるので注意しましょう。

【ブドウ・黒とう病】

本日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

【カキ・炭疽病】

ベンレート水和剤やオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

【カキ・円星落葉病】

ベンレート水和剤やオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

【果樹共通・カメムシ類】

4月4日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

ナシ黒星病の5月下旬における発生量は平年並ですが、5月下旬にまとまった降雨があり、感染が拡大した可能性があります。今後、発病が広がる可能性がありますので、ほ場を確認し、発生状況に注意しましょう。

チャノキイロアザミウマの第2世代(中山間部に位置する稲武は第1世代成虫)の発生ピークは、前年と同時期の6月7日から6月16日と予測されています。下表を参考に適期防除に努めましょう。

表 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第2世代	6/13	6/14	6/8	6/9	6/13	6/14	6/11	6/12	6/16	6/13	第1世代 6/7
(前年)	6/14	6/11	6/8	6/8	6/12	6/12	6/9	6/10	6/15	6/10	(前年) 6/8
前年並	1日早	3日遅	±0	1日遅	1日遅	2日遅	2日遅	2日遅	1日遅	3日遅	前年並 1日早
第3世代	7/5	7/6	6/30	7/2	7/5	7/6	7/4	7/5	7/8	7/5	第2世代 7/6

各地のアメダス平均気温から予測。

6月2日までは実測値を、それ以降は平年値(大府、豊橋は前年値)を用いて計算。

前年の第2世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

野菜

・留意事項

ミナミキイロアザミウマやコナジラミ類が発生している施設野菜ほ場では、栽培終了後に施設を密閉して、ウイルスの媒介虫を死滅させましょう。

キャベツ等の収穫残さはコナガの発生源になるので、収穫終了後は速やかにすき込みましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	白さび病	平年並	県全域	5月下旬の発生量は平年並 6月の降水量はほぼ平年並	± ±

・留意事項

アザミウマ類、ハダニ類などの害虫は、気温が高く雨が少ないと増加しやすくなります。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早めに防除しましょう。

白さび病の被害率は伝染源となるので、できるだけ摘除しましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス: <https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>)、予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス: <https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台6月2日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率80%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：40% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%